

宮城－ハワイ シンポジウムの報告

吉田令子、安齋由貴子、徳永恵子、長澤治夫

宮城大学看護学部

The Miyagi and Hawaii Symposium Report

Reiko Yosida, Yukiko Anzai, Keiko Tokunaga and Haruo Nagasawa

Miyagi University School of Nursing

Abstract

The Miyagi and Hawaii Symposium was held on March 29-30, 1999 on the East-West Center in Honolulu, Hawaii. The symposium was a joint project of the State of Hawaii, Department of Business, Economic Development & Tourism (DEBET), the University of Hawaii, Miyagi prefecture and Miyagi University. The main theme was "Emerging Health and Medical Services in the 21st Century". The symposium was quite successful to gain valuable insight on the topics of comprehensive community health care and health-related tourism for the coming millennium. It was also a good opportunity for participants to establish the networks with healthcare industry and academia representatives from Hawaii and Japan.

1. はじめに

第2回宮城－ハワイシンポジウムが、平成11年3月29、30日にハワイ州オアフ島のハワイ大学 East-West Centerで開催された。宮城－ハワイシンポジウムは、ハワイ州(State of Hawaii, Department of Business, Economic Development & Tourism)、ハワイ大学、宮城県、宮城大学およびホノルル日本人商工会議所の共催で、"Emerging Health and Medical Services in the 21st Century" のテーマで、4つのパネルディスカッションが実施された。本稿では、宮城－ハワイシンポジウムの創設の経緯、第2回宮城－ハワイシンポジウムの概要、シンポジウム後に行われたハワイの医療・福祉施設とリゾート施設の視察について報告する。

2. これまでの経緯

平成6年11月に仙台－ホノルル路線の直行便が就航したのに伴い、宮城県とハワイ州の経済および文化面での交流の機会をより発展させる目的で、「宮城－ハワイ教育フォーラム」の開催がハワイ州知事から提案された。その後、ハワイ州と宮城県が中心になり開催に向けて準備をしていたが、平成9年4月の宮城大学開学後は、宮城大学と州立ハワイ大学が新たに加わり、お互いに共通のテーマでシンポジウムを開催して交流を深めることになった。ここでは、看護学部に関する事項を中心に述べる。

第1回の宮城－ハワイ教育フォーラムは、平成10年1月26-28日にホノルルで開催され、看護学部からは初代看護学部長の池川清子先生が出席された。以下は池川先生による報告書からの抜粋である。

初回の教育フォーラムでは、今後どのようなテーマをとり上げるかについて、

- (1) 高齢化社会における日米共通の看護上の課題についての意見交換の中で、ハワイにおいては特に米国政府の医療費抑制の政策によりこれまでの医学一点張りの政策から看護重点の政策へと移りつつあること
- (2) ハワイ大学看護学部では、高齢化社会並びに異文化間のHealth Careを推進するため、近代

医療と伝統医療の統合を目指すプロジェクトが行われていること

- (3) 日米共通の課題である21世紀に向けての Comprehensive Health Careを Key Wordとしたフォーラムを開催していくことなどが議論された。

第1回の宮城－ハワイ教育フォーラムの結果を踏まえて、平成10年10月からハワイ側と第2回宮城－ハワイシンポジウムの具体的なプログラムの作成にとりかかった。(報告者：長澤治夫)

3. 第2回宮城－ハワイシンポジウムについて

第2回宮城－ハワイシンポジウムは、"Emerging Health and Medical Services in the 21st Century" をメインテーマとして、平成11年3月29-30日にホノルルで開催された。宮城県からは東尾副知事が、宮城大学からは野田一夫学長をはじめ事業構想学部から宮原、毛谷村先生、看護学部から長澤、徳永、安斎、吉田の各先生、事務局から山内氏が参加した。また、パネリストとして、三友紀男先生(東北厚生年金病院)、伊藤道哉先生(東北大学医学部)、川島孝一郎先生(仙台往診クリニック)、大沼晃先生(宮城県柘桃療育センター)が参加した。プログラムは、以下に挙げるように3題の keynote addressと4つのパネルディスカッションから構成されている。

March 29, 1999

Keynote Address

Hawaii-Miyagi Common Agenda in Health and Tourism (Robert J. Fishman)

Panel Discussion I : Opportunity in Health and Wellness Tourism

1. Health Tourism : Destination Hawaii (Chuck Y. Gee)
2. Health Tourism : Japan Style (Dr. Toshio Mitomo)
3. Health Tourism and Healing (Mele A. Look)
4. Health Tourism Marketing (Vivian Ho)

Panel Discussion II : Infrastructure Development for Health Tourism in the 21st Century

1. Challenges in Health Tourism Management (Trahan H. Whitten)
2. The Voice of Japanese Patients (Dr. Haruo Nagasawa)
3. Sport Medicine and Health Tourism (Dr. Randall Suzuka)
4. Health Care Economics and Health Tourism (Dr. Gerard Russo)

March 30, 1999

Keynote Address

Cultural Aspects of Developing Comprehensive Community Health Care Systems (Yukiko Anzai)

Panel Discussion III : Relating to Comprehensive Community Health Care

1. The Voice of the Patient in Community Health Care (Michiya Ito)
2. Comprehensive Community Health Care and Nursing : A Policy Perspective (Dr. Rosanne C. Harrigan)
3. Community Health Care and Nursing in Miyagi (Reiko Yoshida)
4. Community Involvement in Meeting Local Health Care (Dr. Mary Frances Oneda)

Panel Discussion IV : Telemedicine Applications in Comprehensive Community Health Care

1. Telemedicine in Preventive and Integrative Medicine (Dr. James Hastings)
2. Telemedicine and Terminal Care Patients (Dr. Koichiro Kawashima)
3. Medicine and the Internet (Dr. Daniel C. Davis)
4. Telemedicine in Japan (Dr. Haruo Nagasawa)

Keynote Address

Long-term Care Issues in Japan (Dr. Akira Onuma)

シンポジウム終了後、宮城大学とハワイ大学との間で学生、教員スタッフの交流や共同研究、共同事業を積極的に行う趣旨の覚え書きの調印式が行われた。我々看護学部としても、近い将来卒業生がハワイ大学看護学部へ留学したり、アメリカの看護職の資格を取ることも可能になると思われる。(長澤治夫)

4. 宮城大学看護学部からの発表

1) The Voice of Japanese Patients (日本人のライフスタイルと疾病構造の変化について)

日本は世界一の長寿国であり、世界に類のないスピードで高齢化社会を向かえようとしている。その中で日本人のライフスタイルと疾病構造の変化について、特に生活習慣病と慢性疾患について述べた。ハワイは世界でも有数の保養地であり、日本の高齢者や慢性疾患患者がハワイで中長期間滞在し、リハビリテーションやケアを受けられるにはどのような環境整備が必要かについて議論した。(長澤治夫)

2) Cultural Aspects of Developing Comprehensive Community Health Care Systems

日本では、日本国憲法第25条に基づき、その時代の健康問題や社会ニーズに応じて、国、都道府県および市町村が、保健・福祉に関する様々な施策を実施してきた。そこで、主に一般衛生行政の体系、各々の機関の役割・活動の概要について述べた。また、代表的な保健福祉サービスについてスライドを用いて紹介し、保健所や市町村における保健婦活動やその役割について説明した。

近年高齢化の急速な進行や、生活習慣病の増加により、衛生行政の内容が大きく変化している。その代表的なものとして、地域保健法の制定によって地域保健の総合的な見直しが行われたこと、来年度の介護保険制度の導入によって保健福祉サービスの新たな体制の確立を目指そうとして準備が行われている現状について紹介した。

保健婦活動においても、社会ニーズの変化や保健・福祉施策の変革に伴い、活動内容や期待される役割が変化している。各種計画立案に参画する保健婦や、様々な職種との連携調整の役割を担う保健婦活動の紹介と今後の保健婦活動の課題につ

いて述べた。

次に、日本における複雑な看護職養成教育の体系について紹介した。国民の高学歴化、健康問題の複雑化、医療の進歩により、看護職に対する期待も高まり、看護職養成教育の高等教育化が急激に進行している現状についても説明した。看護基礎教育のカリキュラムは、保健婦助産婦看護婦学校養成所指定規則により規定されているが、科学的思考を基盤とした看護の実践力、保健・医療・福祉全般にわたる広い視野、高い教養を備えた豊かな人間性を育てることが求められ、1996年にカリキュラムが変更になった。その中で保健婦教育の基本的な考え方とカリキュラムについて述べた。

(安斎由貴子)

3) Community Health Care and Nursing in Miyagi

(宮城県における地域医療と看護－神経難病患者の在宅ケア事例を通して－)

宮城県は、日本における神経難病患者の医療整備事業のモデル県となっており、ネットワークシステムの構築において先進的な活動がなされている。筋萎縮性側索硬化症(ALS)患者M氏の在宅での生活を通して、宮城県の医療・保健・福祉サービスの内容とコストについて報告した。また、10年間の療養生活の中で、「病名告知」、「人工呼吸器装着」といった危機的状況を乗り越えて、宮城県におけるALS患者と家族会の中心として、仲間を支えるなどの社会参加を果たしてきた。希望を持って力強く生きるM氏とその家族の姿を紹介した。(吉田令子)

4) Telemedicine in Japan (日本における遠隔医療について)

テレビ電話、コンピューターシステムなどのメディアを利用した新しい医療システムについて議論した。日本における電話回線を用いた画像診断(Teleradiology)やInternetを利用した遠隔医療システム、在宅ケアへのネットワーク整備など最新の通信技術を利用した地域医療を報告した。最後に、ハワイの会場と仙台を電話回線で結び、実際の医療画像を転送して遠隔医療のデモンストレーションを行った。(長澤治夫)

5. ハワイ島視察報告

ハワイ島では事業構想学部宮原教授が開発事業として中心的に関わったHulalai Hawaii Resortと、50ベッドを保有するNorth Hawaii Community Hospitalの2ヶ所を見学した。

ハワイ島はビッグアイランドと別名呼ばれているハワイ諸島の中で最大の島である。4,200m級の山が2つありその一つは宇宙観測で有名なすばる天体望遠鏡が設置されたマウナロアである。これらの山の西側は一年中好天気恵まれており雨がほとんど降らないため、ゴルフコースを抱える高級リゾートが開発されている。最初に訪問したHulalai Hawaii Resortはその一つである。一方North Hawaii Community Hospitalは雨の多い東側との中間に位置する標高700mの小さな町にある。

Hulalai Hawaii Resortは、まさに高級リゾートのなかでも最高のアメニティを備えていることで有名である。黒い不毛と思われる溶岩台地の上に開発されているため、目の前に突然広がる緑の芝生や敷地内のトロピカルな植物が生かされた環境は一歩足を踏み入れただけでリラックスできる。ホテル、コンドミニウム、ゴルフコース、スポーツクラブから成るハイクラスなリゾート施設である。特別にスポーツクラブを見学することができた。テニスコート、プール、はもちろんであるが、エアロビクス、フィットネスセンター、運動後のサウナやマッサージまで受けることができ、まさにフルコースで体力調整が可能である。2～3週間滞在すれば、たるんだ体がひきしまり、身も心もリフレッシュさせてくれる環境といえる。ただし滞在が負担にならない経済力が絶対不可欠であることは言うまでもない。

North Hawaii Community Hospitalはカムエラという町にあるが、この町は有名なパーカー牧場のそばにある。1996年5月にオープンした地域の人々の病院である。50ベッドとはいえ、最新検査治療設備とともに救急治療設備も備えた本格的な病院である。この病院は全米で最初にヒーリングセラピー、カイロプラクティック、ハリ、マッサージなど自然治癒力を高める治療を診療科目に加

えたということである。このような治療方法は地域に住む人々に歓迎され受け入れられている。病院施設は患者の疾患を治療する場ではあるけれども、最も患者の回復の手助けになる家族をケアの重要なメンバーとして対応していることが、病院施設の様々な場に配慮されていた。病室は木製の家具が使用されているせいか、とても暖かみを感じられた。また説明されなければ家族と過ごす居間としか見えない部屋が分娩室であった。家族のために特別に用意されている部屋は広いリビングとキッチンがあり、ゆっくりくつろげる雰囲気があった。

建物は平屋であるが、廊下が広くまた光を天井から取り入れる工夫などがしてあり廊下に飾られた絵やタペストリーがどれも印象的だった。緑の中庭も心が和んだ。見学して感じたことは、今後治療や手術が必要な時はぜひここに入院したいということ。このような思いを見学した全員が感じたと思う。そのようなホスピタリティーに満ちた施設だった。(徳永恵子)

6. ハワイ大学看護学部研修

4月1日(木)は、ハワイ大学看護学部において研修を行った。内容は下記の4つから構成されていた。

1) Greeting and Welcome : Dr. Rosanne Harrigan (Dean, School of Nursing) and Dr. Bob Grosseman

アメリカの医療システム、保険システムについて説明を受けた。政府の財政難が続き、日本のような医療費の公的支援、保健福祉施策には期待できず、高額な医療費を自ら支払わなければならない状況である。シンポジウムで紹介されたALS患者の例にアメリカでかかる費用について具体的な説明を受けた。

2) Long term Care and Health Care in the US : Dr. Cheron Pierson

アメリカでは、患者はまずnurse practitionerを受診し、nurse practitionerが患者の状態に応じて必要時許可されている薬を処方する。または、病院受診の必要性を判断する。そのためnurse practitionerはphysical assessmentの能力が重要となる。nurse

practitionerの活躍をビデオ鑑賞し、paper patientによりphysical assessmentの演習を体験した。

3) Overview of the University of Hawaii, School of Nursing : Dr. Barbare (Bee) Molina Kooker

アメリカの看護教育制度について説明を受けた。看護職の職種や免許取得方法に違いはあるが、日本の教育制度と類似している。ハワイ大学看護学部の学士課程、修士課程、博士課程のカリキュラム、取得資格、就職、給与などについて説明を受けた。

4) Aw Center for Health and Healing : Dr. Jane Starn

healing therapyに関する研究、ハワイの伝統的healing therapyについて説明を受けた。また、BrennanのHuman Energy Field理論(7つのチャクラ)について解説を受けた。(安斎由貴子)

7. オアフ島視察報告

本視察の目的は、ハワイ州における包括的な保健・医療・福祉サービスを提供している既存施設の概要とサービスの実施状況を把握することである。

視察場所は以下の5施設である。

- 1) Kuakini Medical Center クアキニメディカルセンター
- 2) Rehabilitation Hospital of the Pacific リハパ(リハビリ専門施設)
- 3) Hospice Hawaii ホスピスハワイ
- 4) One Kalakaua (Senior Living) ワン・カラカウア(高齢者向け集合住宅)
- 5) The Queen's Medical Center クイーンズメディカルセンター

以下にそれぞれの施設の概要と実施状況について述べる。

1) Kuakini Medical Center

① ロングタームケア

成人対象の長期療養病棟250床。(同敷地内に総合病院250床を持つ。)

RN 30名 LPN 20名 Aid 81名

目的：レジデンスのニードの応じた心身のケア

ローチ、個別ケアを行う。

② デイケア

地域の要介護高齢者を対象としたデイケア施設、定員15名 時間6:45~17:20 利用料 75\$/日

MSW 1名 RN 1名 RT 7名

目的：レクリエーション療法を中心とした高齢者のデイケアを行う。

内容：デイリースケジュールに沿ってリアリティーオリエンテーション、音楽、絵画、創作、園芸療法、軽運動等を行い生活リズムを整え、スタッフや他の利用者との交流を通して生活にハリを持たせている。

2) Rehabilitation Hospital of the Pacific

太平洋地域でも有数の設備を持つ専門リハビリ施設。

4フロア20の外来を持つ100床の施設在院日数約40~70日

総職員数400名 専門職 RN 25~30名 OT 35名 PT50名 ST 7名 SW 7名

目的：自立生活への復帰

内容：身体の機能訓練、心理療法、個人の趣味、ガーデニング、ペット療法、水上プログラム、芸術・絵画療法、運転、パソコン等の生活技能訓練。

特徴：通院治療ネットワークをもち、地域に戻ってからのアフターケアが継続的になされている。家庭や職場への復帰率は国内でもトップクラスとのことである。

3) Hospice Hawaii

オアフ島で末期医療の患者の介護を志望する医師、看護婦、ボランティアの人々により1979年に設立（現在米国では3000ヶ所うちハワイでは7ヶ所）。Medicare（高齢者公的医療保険制度）・Medicaid（公的医療扶養制度）認可のホスピス。患者の自宅、ナーシングホーム、病院、その他居住型の環境においてサービスを提供している。

緩和ケアチーム：主治医、RN、ケースマネージャー、MSW、医師、Aid、心理カウンセラー、ボランティアコーディネーター、ボランティアその他必要に応じてヘルスケアの専門職（注

入等の医療処置は専門の在宅医療会社の看護婦が対応等）より構成されている。

理念：QOLを豊かにする為の適切な看護、社会支援、芸術、音楽療法、精神的サポート、死に対する準備等を提供することで、患者、介護者、家族に、困難な時期を通じて援助する。末期症状に直面する患者とその家族の為に、慣れ親しんだ地域社会の中で介護と緩和を進めていく。

サービス内容：看護管理、痛みの緩和ケア、症状の処置、日常生活の援助、情緒・精神面の援助、医療備品の注文をサポート、介護指導、家族の一時休息、付き添い、患者看護の為にボランティアの支援、RNの24時間対応、死の準備の為のカウンセリングと家族に対するサポート等。

その他：一部自己負担で5床のホスピスハワイホーム、地域病院と契約でホスピス用ベットを確保している。

4) One Kalakaua (Senior Living)

高齢者向け集合住宅 3階~15階：480,000~535,000 \$ 156戸のレジデンスを持つ 1~2 Bedroom・2 Bath・1 Living・DK 管理費1,439 \$ (1人) ~1,839 \$ (2人) / M

1階：エントランスホール・食堂・レクリエーションルーム・図書室・美容院・マルチパーパスルーム・デイケアルーム・フィットネスジム・屋外プール

2階：ナーシングホーム・ショートステイ病床（計32床）利用料 2人部屋 185 \$ / D. 個室 215 \$ / D. スタッフ体制は日勤であった。

5) The Queen's Medical Center

救急病床530床 準救急病床30床ハワイ並びに太平洋地域で最大の病院。特殊医療検査でも最大規模。医師1,000人 その他従業員3,000人 腫瘍科・神経外科・消化器系科・心臓科・産婦人科・外傷科・クリティカルケアでは先進的である。成人精神科では幅広い治療が、効果を上げている。（吉田令子）

8. おわりに

宮城－ハワイシンポジウムについて、これまでの経緯を踏まえて看護学部の活動を中心に報告した。宮城県とハワイ州は、太平洋を挟んで向かい合う位置にあり、仙台空港からの直行便で恐らくホノルルへ最短距離で結ばれているのではないかと

と考えられる。次回は、2000年9月下旬に宮城県で開催する予定であるが、これを機会に宮城大学と州立ハワイ大学とますます交流が盛んに成り、また宮城県とハワイ州と間でさまざまな分野での交流が活発になることを期待するものである。